

闘争指示第 15 号
2006 年 1 月 6 日

エリア本部
各 闘争委員長殿
地方本部

国 鉄 労 働 組 合
中央闘争委員長 佐藤 勝雄

羽越線脱線・転覆事故に伴う「安全総点検運動」の強化について

2005 年 12 月 25 日 19 時 14 分ごろ、砂越駅～北余日駅間で秋田駅発新潟駅行「いなほ 14 号」が脱線・転覆し、死者 5 名、32 名が負傷する重大事故が発生した。事故の原因は調査中であるが、直接的な要因は強風にあおられて脱線したと見られている。しかし、脱線原因が異常気象にあったにせよ災害防止対策上許されるべきではない。JR に働く労働者で組織する労働組合員の一員として亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りするとともに、負傷された皆様方に心からお見舞い申し上げます。

国労は、福知山線脱線・転覆事故以降、危険箇所等の「安全総点検運動」を強化してきたところであるが「あってはならない事故」が再び発生し、国民の鉄道輸送に対する安全対策の信頼は失墜している状況にある。

事故対策は「たれば」で済まされるものではない。営利「優先」主義や規制緩和、急激なシステム変更や雇用流動化施策等の中に、「事故の芽」は耐えず創出されてきている。闘争指示第 33 号（05 年 5 月 11 日）に基づく、「安全総点検運動」を強化するとともに下記の取組みに全力を期されたい。

記

- 1 強風箇所の安全点検について
強風箇所を再調査し、危険箇所を改めて明確にすること。
強風箇所における暴風対策（風速計や暴風棚等）及び運転帰省区間における安全対策が施されているか点検・調査し交渉を強化すること。
- 2 水害・雪害及び地震対策について
危険箇所と思われる区間を改めて再点検し要求を集約すること。
危険箇所（踏切を含み）における災害防止対策の要求を改めて集約し交渉を強化すること。
- 3 「安全点検運動」の強化について
各機関は、過去に発生した事故及び現在発生している運転事故並びに輸送障害事故を検証し「安全総点検運動」を強化すること。

要求の集約及び各機関に対する「申し入れ」の写しは、本部も集約するので送付すること。尚、国土交通省等の行政に対する要求は、引き続き本部に集中すること。

以 上